

平成27年度事業報告

事業概要

シルバー人材センター事業（以下「シルバー事業」という。）は、急速な少子高齢化が進展する中、地域社会を活性化の中核事業として、より一層の発展・拡充が期待されているところである。

このような中、行政をはじめとする関係機関や地域社会の支援をいただきながら、第3次中期事業基本計画を活動指針とし、「自主・自立、共働・共助」の基本理念のもとに会員及び役職員が一体となって事業運営を強化・拡充し、地域社会の活性化に貢献する公益性の高い事業を展開してきた。

特に「会員の拡大」と「就業機会の拡大」に積極的に取り組み、啓発用パンフレットの全戸配布や鳥取市報に特集記事を掲載する等の普及啓発活動を行った結果、事業実績としては、受託事業に一般労働者派遣事業の実績を加えた総実績額は265,032千円となり、前年度より7,901千円（前年度対比103.1%）の増となった。

また、入会説明会は196人（前年度対比115.3%）の参加者があり、その内、新規入会者は114人（前年度対比122.6%）と成果をあげることができた。

会員数については、加齢や家庭の事情等の理由により、新規入会者とほぼ同数の退会者があったため、昨年度末より2人増の726人であった。また、就業率は90.5%（会員数726人中、就業実人員657人）と昨年度を1.8ポイント上回った。

第3次中期事業基本計画に対する実績は、傷害事故件数以外は目標達成は叶わなかったものの、全般的に目標値に近い数値であった。

以下、平成27年度の事業実施状況についてその概要を報告する。

【第3次中期事業基本計画に対する実績】

	平成27年度	
	目標値	実績
会員数	741人	726人
受託・派遣事業総実績	268,600千円	265,032千円
傷害事故件数	5件以内	3件
賠償事故件数	3件以内	4件

※傷害事故、賠償事故件数は保険適用外を含む。

1 事業実施報告

(1) 就業機会提供事業

① 雇用によらない就業機会の提供

高齢者にふさわしい地域に密着した仕事を一般家庭、民間企業及び公共団体等から有償で引き受け、会員の能力、希望等に応じて請負又は委任という形式で就業機会の提供に努めた。

受託事業については、既存発注者からの受注の増加、子育て支援事業のPR効果及び技能系職種の後継者育成に取り組んだこと等もあり、契約金額は前年度を9,006千円上回る253,999千円となり103.7%の増となった。

また、指定管理者として受注した駐輪場管理運営業務の実績は下記のとおりである。

- ア 鳥取市営鳥取駅高架下第1、第2自転車駐車場（駐輪場）の指定管理者として、再指定され2年目が経過した。この間「親切・丁寧な対応、清潔で快適な自転車駐車場」を目指して、公平かつ適正な管理運営に努めた。学生の利用者が年々減少する中、今年度駅前に開校した医療専門学校にPRする等利用者の確保に努めた結果、今年度実績は、当初計画14,409,000円に対し、14,398,040円（達成率99.9%）と概ね計画どおりの実績をあげることができた。
- イ 提案事業であるパンク等の修理を行う「自転車有料修理サービス」は代用自転車の貸し出しと迅速な対応がお客様に好評で201件、372,423円の実績をあげることができた。
- ウ 鳥取市等から譲渡を受けた放置自転車の修理再生を行い、23台を市民に提供し、会員の就業機会の拡大と資源の再利用に努めた。
- エ 利用者満足度アンケート調査を実施したところ、「窓口での朝夕の挨拶がよい」等、接客マナーについては大変好評であった。

② 雇用による就業機会の提供

適正就業の推進及び高齢者への幅広い就業ニーズの対応を図るため、一般労働者派遣事業及び職業紹介事業による就業機会の提供を行った。

一般労働者派遣事業については、平成27年3月末に3年期間制限が到来し、平成27年度当初の派遣件数が3件減少したこともあり、派遣件数21件、就業延人員2,407人日、派遣実績額11,034千円（前年度対比90.9%）であった。

なお、平成27年9月末に改正労働者派遣法が施行され、60歳以上の派遣労働者については、派遣期間が3年という制限を受けることなく働くことが可能になったため、平成28年度以降、事業実績は拡大していくことが期待される。

職業紹介事業については、求人、求職とも利用がなかった。

(2) 研修・技能講習事業

シルバー事業の基本理念及び仕組み等に対する理解を深めるための研修会並びに就業に必要な技能や知識の習得及び後継者の育成を図るための技能講習会を開催した。また、高齢者の健康維持、体力増進のための講座を開催した。

(3) 安全・適正就業推進事業

高齢者の就業に当たっては、安全就業を基本とし、事故防止対策に組織をあげて取り組まなければならない。高齢者が安全かつ適正に就業できるよう安全就業対策の徹底及び就業形態の適正化を図り、事故防止に努めた。

- ① 会報「シルバーとっとり」への啓発記事の掲載や職群班会議における注意喚起等、あらゆる機会をとらえて積極的に事故防止に取り組んだ結果、昨年度に比べ賠償事故

を大幅に減らすことができた。

- ② 剪定作業や草刈り・除草作業に就く会員に、熱中症の注意喚起や台風などの気象情報等、緊急度の高い情報が速やかに伝わるよう、会員連絡網を活用して安全確保に努めた。
- ③ 会員の安全意識の高揚と就業中若しくは就業途上における事故防止のため、安全・適正就業部会が不定期で「安全就業の日」に安全パトロールを実施した。特に7月の「安全・適正就業強化月間」には役員も参加し、啓発に努めた。
- ④ 「安全大会」を開催し就業ルールを再確認するとともに、個人情報の適正な取り扱い等について周知を図った。

(4) 普及啓発事業

地域社会にシルバー事業を広くPRすることにより、シルバー事業の意義、活動内容等が正しく理解されるよう普及啓発活動を積極的に行った。

- ① 各地区の公民館や自治会の協力のもと、本センターをPRするためのパンフレットを全戸配布するとともに、鳥取市報に特集記事を掲載する等、シルバー事業を広く地域に啓発した。
- ② 啓発用パンフレットをリニューアルし、センター事業の内容をより分かりやすく紹介した。
- ③ 10月の全国シルバー人材センター普及啓発促進月間にあわせ、普及啓発部会による街頭でのパンフレットの配布、女性部会による地域イベントへの参加等、シルバー事業のPRに努めた。
- ④ 地元新聞社及びテレビ局への取材協力等、マスメディアを活用した普及啓発活動を行った。また、ホームページを適宜更新し、活動内容を分かりやすく情報提供するよう努めた。

(5) 就業分野の開拓・拡大事業

就業機会の拡大のため、高齢者の希望に応じた多様な就業機会の開拓に努めた。また、地域班連絡協議会を通じて会員ひとり一人が積極的に就業開拓に取り組むよう依頼し、会員の運営参画による就業機会の拡大に努めた。

- ① 役員が事業所等を訪問し、日頃のお礼と引き続きの利用をお願いした。お客様からは「早朝と夕刻の仕事なので、仕事に穴があかなくてとても助かっている」等の感謝の声をいただいた。今後も、より一層お客様が満足される親切、丁寧な仕事を心掛けていくこととする。
- ② 鳥取商工会議所が発行する会報紙に啓発用パンフレットを折込み委託し、新規就業先の拡大を図った。

(6) 福祉家事援助・子育て支援事業の推進

高齢者が長年培ってきた豊かな経験と知識を活用し、地域社会の要望を踏まえながら、地方公共団体と連携して地域密着型の事業を展開し、地域社会の活性化に貢献した。

- ① 行政と連携した応急軽度支援事業、高齢者の日常生活を支える家事援助サービスに対応できるよう会員交流研修会及び各種講習会を開催した。
- ② 「介護・子育て」事業の一環として毎月1回「にこにこ広場」を開催した。「にこにこ広場」は0～3歳の乳幼児を対象に会員が子育ての知識や経験を生かしながら、母親の相談相手、ストレス解消も兼ねた情報交換の場としてボランティアで子育てを支援するものである。参加者からは「子育て経験談、ためになります。」「手作りおもちゃが温かい雰囲気でした。」「子どもを見てくれて安心して楽しめた。」等の感謝の声をいただいた。
- ③ 鳥取市が主催する「鳥取市子育てお母さんのホットルーム『らくだクラブ』」に運営協力団体として参加するとともに、「鳥取市子育て支援ネットワーク」のメンバーとして他の登録団体との情報交換を図った。

(7) 社会参加活動推進事業

高齢者の社会参加活動を支援するため、市内の公共的施設等の清掃ボランティア作業を行い、地域社会に貢献するとともにシルバー事業の社会的意義の周知に努めた。

(8) 調査研究事業

会員の就業実態及び運営状況等について発注者の評価を伺い、今後の事業運営に反映させるため、発注者満足度アンケート調査を実施し、お客様に対するサービス内容の改善に努めた。なお、調査結果は、会報「シルバーとっとり」及びホームページで市民に公開した。また、毎月事業実績等各種データの集計及び分析を行った。

(9) 相談、情報提供事業

入会を希望する高齢者のために毎月2回入会説明会を実施するとともに、就業に関する相談、定年後の就業や社会参加を希望する高齢者のために情報を提供した。

また、ホームページを活用して講習会の開催計画、イベント等の紹介及び就業に関する情報を積極的に提供した。

「用瀬取次所」を活用して地域住民へ情報提供するとともに、地元事業所とも連携して毎月第2水曜日に「手作り作品ふれあい展示会」を定期開催し、地域活性化に努めた。

(10) 組織の活性化と運営体制・財政基盤の強化

① 理事会、専門部会及び各委員会等

役員は、定款に定める総会、理事会の開催と規程等に基づく各種会議や研修会を開催し、公益社団法人として適正かつ円滑な運営に努めた。また、全国シルバー人材センター事業協会、中国ブロックシルバー人材センター連合協議会、鳥取県シルバー人材センター連合会主催の研修会及び経験交流会に参加し、研鑽に努めた。

理事は専門部会（組織部会、普及啓発部会、事業推進部会、安全・適正就業部会、女性部会）のいずれかに所属し、分野ごとに職務を遂行した。

② 地域班・職群班活動

地域班連絡協議会を年5回開催するとともに、地域班会議、職群班会議及び事務局・会員相互の交流のための会員交流会を開催した。

③ 事務局体制の強化

事務局は、高齢者の就業意向や発注者からの仕事の依頼等、重要な情報が集まる場である。多様化する事務局運営に十分に対応するため、各種研修会や講習会に積極的に参加し、職員の資質と事務能力の向上に努めた。

④ 安定した財政運営の推進

国のシルバー事業実施要領等の見直しにより事業成果が問われる中、自主財源を確保するため受注拡大による事務費収入の確保に努めた。